

公表

放課後等デイサービス事業所における自己評価総括表

○事業所名	放課後等デイサービス トレインキッズアネックス		
○保護者評価実施期間	2026年1月31日		～ 2026年2月15日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	66	(回答者数) 36
○従業者評価実施期間	2026年1月31日		～ 2026年2月15日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	5	(回答者数) 5
○事業者向け自己評価表作成日	2026年2月18日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※)だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的に行っている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	○将来の就労を考えたパソコン療育を実施 ・子供のうちからITを楽しく学べるように、たくさんのパソコンを設置している。 ・パソコンの基本操作を学ぶことにより、パソコンスキルや表現力、創造力の向上を目指している。	・利用者様の「できた・やってみたい」等、興味のあることに関連させながら、Excel・Word・PowerPoint・プログラミングを実施している。 ・タイピング練習を継続的に行っている。 ・ネットリテラシーを学ぶ機会も設けている。 ・主体的に目標を設定し、自らの力の向上に向けて努力することで自己成長の美感・達成感を育んでいる。	・進路や移行先の選択についての利用者様や家族様への相談援助や移行に向けての様々な準備の情報提供・支援等を行っていく。
2	○心理学を活用したSSTを実施 ・小集団または個別のソーシャルスキルトレーニングを行っている。 ・挨拶や援助要請などのコミュニケーションスキル・受験や就労に向けてのトレーニングを行っている。	・SSTの時間を中心に、将来の進学や就職・社会生活・自立に向けたスキルやマナーを楽しく身につけていく。 ・「自己認知」「気持ちの表出方法」等のテーマを設定して、それぞれ感じた事を発表しあい、様々な考え方があふれる事を知ると同時に、ロールプレイなどを通じて適切な行動を身につけられるようにしている。 ・自分の意見を伝える力・相手の意見を聞く力等を身につけられるようにしている。 ・SSTの時間にその日の目標(ハイペースステップ)を決め、自由時間・友達との関わりの中で実践する事により理解を深められるようにしている。 ・友達とコミュニケーションがとれる場として、コミュニケーションゲームを実施している。 ・共通の「好きな事」であれば会話を弾んで仲良くなる事ができるので、意図的に友達に関心を持てる機会も作っている。	・利用者様が安心して過ごせる居場所・信頼して何でも話せる相談者がいる事業所となれるように、受容・共感・傾聴を意識して支援をしていく。 ・自己肯定感と自己効力感(がんばればできるようになる)と自分を信じられる気持ちを高められるようにサポートしていく。また、自己選択・自己決定する機会も作る。
3	○毎週土曜日に、季節のイベント・クッキングイベント・フットサルイベント・外出支援を実施 ・フットサルや職業体験、タイピング検定など、子供たちが様々な体験をして成長できる場を作っている。 ・保護者向けの子育てコーチング研修も実施している。	・挨拶、お金の数え方、買い物の仕方、自分で計画を立てる、電車やバスの乗り方や行きたい場所の道順を考える等、自立に必要な力を学ぶカリキュラムを実施している。 ・職業体験を通して、お子様「社会とのつながりを感じ」「将来働く」ということを楽しくイメージできる機会を作っている。	・全ての子どもに得意なことがあると考え、様々な体験から個性や得意を引き出して持って生まれた才能を開花させられるようにサポートを行っていく。 ・ホッと息抜きできる「第二のマイホーム」としての役割を担えるように、様々な体験ができるイベントを考えていく。

	事業所の弱み(※)だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	・イベント活動時や自由時間に同じ活動をしているお子様が多い場合、狭さを感じることもある。	・イベント活動時や自由時間に同じ活動をしているお子様が多い場合、狭さを感じることもある。	・活動ごとに机を移動する等の環境設定を行う必要がある。 ・活動によって人数設定の工夫をする。
2	・相談支援事業所を通してのみしか共有できていない。	・相談支援事業所を通してのみしか共有できていない。	・相談支援員や保育所等訪問支援をされている事業所の方との情報共有の場を設定する。 ・担当者会議だけではなく、定期的に相談支援員の方と情報共有する場を設ける。 ・事業所内支援会議の場で、アセスメント等を共有する場を設け、質疑応答を通して支援内容をブラッシュアップしていく。
3	・利用日数が少ない方や毎週通所日が定まっていない方に連続性のある支援を実施できていない。	・利用日数が少ない方や毎週通所日が定まっていない方に連続性のある支援を実施できていない。	・他の事業所や学校、就労支援事業所と連携することで、今すべき支援や個々に応じた進路支援を計画し、実施していく必要がある。 ・連携をスムーズに行うために、自立支援協議会への参加を通して、横のつながりを増やしていく。